

和魂洋才 世界のリーダーへ

## 武田薬品工業<sup>①</sup>

# 挑戦 する企業

ノウハウ得る

武田薬品工業は重点疾患領域を絞り込むなどして研究開発の生産性を改善する改革を進めてきた。社長のクリストフ・ウエバーは、アイルランド製薬大手シャイアーの買収によって改革を加速できると主張する。ただ武田はシャイアー統合後、具体的にはどのような道筋で新薬をつくる力

## 買収で創薬力は高まるか

を上げていくのか。

「シャイアーは、それほどリサーチには投資していない」。ウエバーは、シャイアーを買収した狙いの一つは同社の創薬研究者が欲しかったからか、と問われてこう回

いわけではないようだ。

一方で、ウエバーは「シャイアーは開発の会社。たくさん学べることはある」と話す。また、

する業務などを製薬企業から請け負う業態で、武田はCROとの効率的な協業が求められ続ける。

「シャイアーは開発の会社。たくさん学べることはある」と話す。また、

### R&D費も増加

武田がシャイアー買収で得られる短期的なメリ

## シャイアーは「開発の会社」

答した。シャイアーは希少疾患に強いことで知られるものの、開発品や製品は「ほとんどの場合、（他社から）導入したり買ってきたりしたもの」（ウエバー）であり、自

とみている。「医薬開発受託機関（CRO）に発注してきた研究開発費の増加も挙げられる。買収で事業規模が拡大する

ツトには、年間30億ドル（約3000億円）を基準としてきた研究開発費の増加も挙げられる。買収で事業規模が拡大する

（ウエバー）。有望な開発品に資金を回しやすくなり、新薬投入ペースが速まる可能性はある。ウエバーは「長期の成長は、我々の研究開発のエンジンから生まれる」と話す。これまで進めて

得られる、事業規模の拡大および臨床開発力の強化という利点が生きてくる。だが、創薬力が思うように上がらなかった場合は、他社から開発品や製剤を導入し続けることになりそうだ。（敬称略）



シャイアー買収で新薬投入ペースを速められるか（ブルームバーグ）

▲きた改革の成果として革新的な創薬シーズを多く見いだせるようになったら、シャイアー買収で